

はじめに

近年、消費者の健康志向を反映して、栄養目的やダイエット等を謳い文句とした「いわゆる健康食品」がブームとなっている。

しかしながら、アマメシバ粉末のように、従来は着目されてこなかった健康被害をもたらす成分が濃縮され、大量かつ長期にわたる摂取ができるように加工されることで、結果的に重大・重篤な健康被害を呈する可能性がある食品も存在する。このような食品については、大量に摂取できる形態となっていること、そのまま摂取するなど通常の調理法の選択肢がなくなっており、これまでの食経験が役立たなくなっている。

このような健康食品による被害を未然に防ぐためには、あらかじめリスク評価の取組を可能にする被害情報を収集する必要がある。世界各地でのこれまでの食経験や、漢方、西洋医学での生薬を用いた治療法の、長年にわたる植物・菌類利用に関する豊富な蓄積、また、植物学、有機化学、薬学の研究成果の中から人的被害につながる情報を抽出する必要がある。

今回の調査は、以上のような背景を踏まえて、種子植物・菌類の有害成分について調査を行い、食品のリスク評価に資することを目的として実施したものである。

平成 16 年 3 月

株式会社 三菱総合研究所

目 次

はじめに

1. いわゆる健康食品等の安全性に関する国内外の文献調査1.1
 1. 1 いわゆる健康食品等の概要と調査対象の選定1.1
 1. 2 いわゆる健康食品の安全性に関する情報の収集1.10
 1. 3 いわゆる健康食品による健康被害の状況1.21
 1. 4 いわゆる健康食品の安全性に関する研究の現状1.53

2. 国内の有識者に対する聞き取り調査2.1
 2. 1 ヒアリングの概要2.1
 2. 2 ヒアリング結果2.3

3. 調査結果のとりまとめと分析3.1
 3. 1 注目すべき健康食品等に係るデータ3.1
 3. 2 今後の課題3.2

<参考資料>

- ・健康食品に含まれる成分の特徴参考 1
- ・本調査で利用した情報源参考 14